

第 72 期リーグ戦立合講習会 議事録

於：オンライン

日時：令和 7 年 8 月 24 日 18 時～19 時 30 分

司会：東京都学生弓道連盟第 72 代委員長 塚原凜太郎

書記：比良井慧一

桑原 宏多

永田 真菜

議題

1. 諸連絡・諸注意
2. 立合とは
3. 立合の流れ ①オープンチャットでの打ち合わせ
4. 立合の流れ ②会場到着
5. 立合の流れ ③試合開始前の最終打ち合わせ
6. 持参書類(立合校、競技校)
7. 立合の流れ ④附矢
8. 立合の流れ ⑤的見
9. 立合の流れ ⑥開会式
10. 立合の流れ ⑦試合開始前準備
11. 立合の流れ ⑧試合中
12. 立合の流れ ⑨閉会式
13. 立合の流れ ⑩本連盟に結果報告
14. その他連絡事項
15. 試合中のトラブル対応について
16. ケーススタディー
17. まとめ
18. 事前質問フォームへの回答
19. 質疑応答

1. 諸連絡・諸注意

不出場の連絡があった大学

- ・日本文化大学(男子、女子)

棄権の連絡があった大学

- ・東洋大学(男子)

→該当する試合は不戦敗として扱う。

- ・ 本講習会の内容は、終了後必ず部内で共有すること。

2. 立合とは

- ・端的に言えば、審判である。
- ・アリーナ大会での学連役員の仕事を簡略化したものである。
- ・体系化されたものであるから十分に理解をすれば問題ない。
- ・試合における責任者である以上、責任は重い。

→現場責任者として責任を問われることもある。そのような事態を回避するために立合講習会が実施されている。

立合業務について

- ・選手照合

立順登録用紙等の照合、出場選手の名前等の確認をする。

- ・的中確認

射場での行射監視、的中確認、用紙に○×を記入する。

- ・各種アナウンス

附矢の開始終了の合図、試合の開会閉会の合図を出す。

3. 立合の流れ ①オープンチャットでの打ち合わせ

オープンチャットでの打ち合わせ

- ・立合主導でオープンチャットでの打ち合わせを開始する。

※競技校2校、会場校が参加次第早急に開始すること。

打ち合わせが遅れてしまった場合、大会運営に支障をきたす可能性がある。

※男子リーグ戦・女子リーグ戦共に第Ⅰ週～第Ⅴ週までの全試合日程が本連盟より発表されている。自身の大学に関係のある試合のオープンチャットに未入室である場合、早急に入室すること。

- ・インターバルを設ける場合、試合終了時刻に影響の出ない範囲で設けること。

- ・附矢時間は延長が可能である。

※ただし事前に本連盟までメールにて申請すること。

※当日に本連盟に延長する旨を申請しても認めない。

4. 立合の流れ ②会場到着

会場到着

- ・立合は附矢開始時刻35分前までに師範席に着席すること。

※立合・競技校の遅刻が分かり次第、本連盟に連絡すること。

5. 立合の流れ ③試合開始前の最終打ち合わせ

試合開始前の最終打ち合わせ(矢取り交渉)

- ・持参書類の最終確認をする。

- ・競技校、会場校とともに矢取り方法の確認等、最終確認を行う。

※会場校から使用上の諸注意がある場合には、予めオープンチャットで連絡を行うことが望ましい。

6. 持参書類(立合校、競技校)

- ・必ず紙媒体で持参すること。

参照する際にデジタル媒体であると、その都度オープンチャットを開く必要性が生じるため不都合である。ただし、大会要項に関しては紙媒体だけでなく、デジタルデータも保有しておくことで結果報告の際に便利である。

- ・予備は多めに印刷すること。

立順登録用紙や立順交代届に書き損じが生じた場合には修正液・修正テープ・修正ペン等は使用せずに、新しい用紙に書き直す必要がある。

- ・必ず最新版、または確定版を毎週用意すること。

※今期リーグ戦用の立順登録用紙、立順交代届を使用しなかった場合、的中の外れ処理の対象になるので注意すること。

7. 立合の流れ ④附矢

附矢

- ・立合状を競技校に配布する。

※Google フォームにて立合状の写真を提出してもらう必要があるため競技校に配布する前に必ず写真を撮ること。例年立合状の撮り忘れが生じ、結果報告フォームの提出の遅延が発生しているため、注意すること。

- ・競技校は附矢終了時刻までに立順登録用紙を提出できるように準備すること。

※例年、競技校の立順登録用紙の提出遅れにより試合開始が遅延したとの苦情が寄せられている。競技校は十分に注意すること。

※同一人物が記入することで漢字の間違いを極力減らすこと。

※学連指定の用紙(第 72 期リーグ戦用)に記入すること。

※記入例(第 72 期リーグ戦用)と同様に記入すること。

※用紙は正式な書類である為、修正液・修正テープ・修正ペン等は使用しないこと。

遅刻処理について

- ・競技校の遅刻が発覚次第、本連盟に連絡すること。
- ・競技校が附矢に遅刻したとき、到着している競技校のみで附矢を開始すること。

※この処理は遅刻理由の正当性によらない。

棄権処理について

- ・ 正当な理由を除き、競技校が試合開始時刻に間に合わない場合、その競技校を棄権校として扱う。
- ・ 競技校の棄権が確定した時点で、本連盟に連絡すること。

※棄権の最終判断は本連盟が行うことに注意すること。

8. 立合の流れ ⑤的見

的見

- ・ 最初は的串を刺さずに、的の下部を押して立てるだけの状態にする。
- ・ 競技校の確認まで全て完了したら、的串を付けさせる。

9. 立合の流れ ⑥開会式

開会式

- ・ 立順登録用紙、立順交代届は競技校用、立合校用の2枚とも立合に提出する。
- ・ 競射の先攻、後攻も開会式の矢振りに準ずる。

10. 立合の流れ ⑦試合開始前準備

試合開始前準備

- ・立順登録用紙の照合を行う。競技校用・立合校用の 2 枚 の立順登録用紙を受け取る。

照合項目

- ・(選手登録用紙と比較して)氏名、学年が正しく記入されているか。
 - ・学連指定の用紙(第 72 期リーグ戦用)に記入されているか。
 - ・記入例と同様に記入されているか。
 - ・正しい情報を自分が公式記録用紙に記入できているか。
 - ・修正液・修正テープ・修正ペンを使用していないか確認すること。
 - ・全て(立合校用・競技校用の 2 枚ともが)同じ内容で通知されているか確認すること。
 - ・誤字、脱字がないか主審と副審でダブルチェックすること。
 - ・全ての選手の照合を終え、相手校に立順登録用紙を渡すまで絶対に試合を開始させないこと。
- ※照合の間違いに気がつくことなく、試合を開始した場合、立合校が懲戒処分の対象となる。競技校は的中の外れ処理となる。
- ・立合、相手校への書面での通知、並びに立合による照合が全て完了して初めて立を開始することが出来る。
 - ・照合が全て完了したら、相手校に立順登録用紙を渡す。
 - ・本座に選手が並び始めたら立合は毎回一人一人の氏名と顔を照合する。初立または交代選手に関しては漢字の間違いがないかを本人に確認してもらうこと。

11. 立合の流れ ⑧試合中

試合中

- ・本座に選手が並び始めたら立合は毎回一人一人の氏名と顔を照合する。交代選手には漢字の確認をしてもらう。

→通知のない交代選手の出場を防ぐためである。

※例年、選手交代の通知の不備により的中の外れ処理となったケースが発生している。

- ・本座線を越えて入場した後に照合の間違いが発覚した場合には、**直ちに**本連盟に連絡すること。

試合中～的中確認～

- ・競技校は「はい、結構です。矢取りお願いします。」の合図が完全に終わったら矢取りを行う。

※主審の合図が完全に終わるまで絶対に的と矢に触れてはいけない。

※的中確認が完全に終わる前に的と矢に触れた場合、その的全ての矢を外れとする。例年接触による的中外れ事案が発生している。

- ・的中確認中は主審と副審は的場を注視しておくこと。昨年度、主審・副審が的場を見ていなかったことで、矢への接触の有無に関し競技校間でトラブルが発生した。

試合中～選手交代の処理～

- ・立合校、相手校への書面での通知、並びに立合による照合が完了して初めて、立を開始することができる。

- ・競技校は立順交代届を競技校用、立合校用2枚をまとめて立合に提出する。

※同一人物による記入を推奨する。

※学連指定の用紙(第72期リーグ戦用)を使用すること。

※記入例(第72期リーグ戦用)と同様に記入すること。

照合項目

- ・(選手登録用紙と比較して)氏名、学年が正しく記入されているか。
- ・学連指定の用紙(第72期リーグ戦用)に記入されているか。
- ・記入例と同様に記入されているか。
- ・正しい情報を自分が公式記録用紙に記入できているか(何射目からの交代等)。
- ・修正液・修正テープ・修正ペンを使用していないか確認すること。
- ・全て(立合校用・競技校用の2枚ともが)同じ内容で通知されているか確認すること。
- ・誤字、脱字がないか主審と副審でダブルチェックすること。
- ・全ての交代選手の照合を終え、相手校に立順交代届を渡すまで、絶対に試合を開始させないこと。
- ・照合の間違いに気がつくことなく、試合を開始してしまった場合、立合校が懲戒処分の対象となる。競技校は的中の外れ処理となる。
- ・本座に選手が並び始めたら立合は、毎回選手一人一人の氏名と顔を照合する。また交代選手に関しては漢字の間違いがないか本人に確認する。

試合中～その他～

- ・トラブルが起きた場合、規約や要項を確認すること。

※判断がつかない場合はすぐに本連盟に連絡すること。(TEL:03-6910-0791)

※**試合中に的中外れ事案が発生した場合は、すぐに学連事務所に連絡すること。**

※**絶対に試合をそのまま継続しないこと。**

・大会要項の熟読が懲戒事案発生の一歩の予防策である。

12. 立合の流れ ⑨閉会式

閉会式

- ・競技校は試合の勝敗に関係なく、**上位校から退場する。**

※これは順位決定戦や入替戦においても同様である。

同中競射が発生した場合

- ・**集合、矢振りを行わない。**
- ・**試合の先攻、後攻に準ずるものとする。**
- ・勝敗宣言の際に参照する的中は競射の的中となる。

13. 立合の流れ ⑩本連盟に結果報告

本連盟に結果報告

- ・**試合会場を離れる前に試合結果報告用フォームに申請する。**

→帰宅後にフォームを申請するケースが見られるが、連盟に結果が届かないと結果報道を行えず運営全体に支障をきたすため、**申請は必ず会場を離れる前に行うこと。**

- ・毎年女子の午前、午後の試合を両方とも立合をする場合で、午前の試合結果を午後試合終了後に午後の試合結果とまとめて送るケースが見られるが、午前の結果は午前の試合終了後すぐに申請、午後の結果は午後の試合終了後すぐに申請という形で、逐一フォーム申請すること。

- ・**立合を行った日は、学連側から提出書類に関して問い合わせる可能性がある。立合を務めた本人、立合校、競技校の代表者は電話が通じるようにしておくこと。**

- ・あらかじめ学連事務所の電話番号を登録しておくこと。(TEL:03-6910-0791)

- ・当日、役員の個人電話から連絡する可能性がある。可能な限り知らない電話番号からの連絡にも対応すること。

14. その他連絡事項

- ・対応や判断に困る事案が発生した場合、そのまま試合を進行するのではなく一度本連盟に問い合わせること。
- ・適切な対応がされなかった場合、公平性が損なわれる可能性がある。

15. 試合中のトラブル対応について

- ・競技校が遅刻した場合、到着している大学のみで附矢を開始してよい。
- 会場の使用時間の都合や公平性の観点から遅刻理由の正当性は考慮しない。
- ・選手登録されていない選手の出場は認められない。
- ・的中確認終了前に的中と矢に触れた場合、その的中全ての矢が外れとなる。
- 競技校は注意するとともに、立合校も競技校間で触れたか触れていないか揉めた際に、きっぱり触れていたか否かを判断できるような中を注視しておくこと。
- ・不明矢が出て判断に困る際は、学連に連絡すること。学連側からの許可が下りれば、的中に触れて的中確認ができる。ただし、矢には絶対に触れないこと。
- ・不適切な選手交代がなされた場合、その選手の的中は全て外れとなる。
- 全て立合校の責任となるため、不正な選手交代がなされていないかを注視しておくこと。
- ・細かい漢字間違いや、種類が多いもの(例 渡邊の邊・齋藤の齋など)は特に注意し確認すること。これは弓道の競技性の担保、記録管理の観点から極めて重要である。

漢字間違い(例)

注意すべき漢字(例)

紘 紘

邊 齋

16. ケーススタディー

ケーススタディー①

・選手が本座線を越えて入場した後に選手登録用紙と立順登録用紙に齟齬が発覚した。

→発覚次第、本連盟に連絡すること。立終了後、**的中確認はせずに**競技校に事実確認を行う。

選手登録用紙そのものが誤っていた場合、外れ処理にはできないため、まずは選手登録用紙に間違いがあったかどうかを確認すること。

ただし、選手登録用紙に誤りがなく選手登録用紙と立順登録用紙または立順交代届に齟齬があった場合は的中外れ処理の対象となる。

ケーススタディー②

・立合が選手登録用紙と立順登録用紙の照合中に競技校が勝手に本座線を越え入場した。

→立合は、照合という責務を全うしているため懲戒にはならない。この場合、「はじめ」の合図を出していたか否かが争点となる。

競技校は、立合校の許可があるまで絶対に勝手に入場しないこと。

もし競技校が勝手に入場してしまった場合、照合が終わるまで一度選手を射位で待たせるといった対応をとり、照合前に行射を開始することがないように注意すること。

ケーススタディー③

・狙いの指導の意図が伺える矢声・指導が発生した。

→狙いの指導の意図が伺える矢声・指導は禁止であるため、規約に基づき、当該行為以降の該当選手の矢を**全て外れ**とする。そのため、**選手交代の必要性も生じる。狙いの指導の意図が伺えるか否かは、立合が責任をもって判断すること。**

ケーススタディー④

・落前で不明矢が発生し、協議中に矢取り役の人が大前の矢に触れた。

→大前の的中は外れ処理となる。協議中であっても立合は的中場の監視を忘れないこと。

競技校は的中確認が完全に完了するまで、絶対に的中と矢に触れないこと。

ケーススタディー⑤

- ・入場の合図を出した後に射位に入った選手を見ると二的の選手が交代されていることに気がついた。しかし提出された交代届には落前の選手交代が記載されていた。
- 不正な立順交代届の使用として二的と落前の選手の的の中は全て外れとなる。

D	E	F	A
D	✕	✕	A
D	C	B	A
大落	落前	二的	大前

例) 立順交代前は大前 A 選手、二的 B 選手、落前 C 選手、大落 D 選手であった。

提出された立順交代届の通り落前の C 選手が E 選手と交代するべきであるが、実際には二的の B 選手が E 選手と選手交代をしていた。

→立順交代届の記載上は C 選手が E 選手と立順を交代し、二的はそのまま B 選手が引くことになっているため、二的と落前は不正な出場としての的の中の外れ処理の対象となる。B 選手を F 選手に、C 選手は E 選手にそれぞれ立順を交代させる必要が生じる。

- ・上記のような予期せぬ選手交代を防ぐために毎立、入場前に選手の氏名と顔の照合を絶対に怠らないこと。

17. まとめ

- ・附矢の延長申請は前日までに行うこと。
 - ・インターバルは、試合終了時刻に影響の出ない範囲で設定すること。
- 試合の遅れにより会場校の撤収時間に支障をきたす問題が毎年多く発生している。
- ・棄権の最終判断は学連が行う。
 - ・立合状を競技校に配布する前に必ず写真を撮っておくこと。
 - ・立順登録用紙、立順交代届は全て立合に提出すること。
 - ・競射の先攻、後攻は開会式の矢振りに準ずる。

各種用紙の照合項目について

立順登録用紙、立順交代届共通

- ・選手登録用紙と比較して氏名、学年に誤りがないか。
- ・学連指定の用紙(第 72 期リーグ戦用)に記入されているか。
- ・記入例と同様に記入できているか。
(修正液・修正テープ・修正ペンは使用されていないか。)
- ・競技校用、立合校用 2 枚とも提出され、同じ内容であるか。

※特に立順交代届は、何射目からの交代であるかが記入されているか確認すること。

- ・入場の合図を出すまでに、用紙の照合、選手本人への照合、相手校に対して用紙を引き渡す、以上の 3 つを必ず行うこと。

その他

- ・ **結果報告は必ず試合会場から出る前に行うこと。**
- ・安全面に十分配慮すること。
- ・本連盟主催大会ではすべて星的(紙的)を使用する。
- ・公序良俗に反する行為は絶対にしないこと、させないこと。
- ・撤収等は速やかに行うこと。
- ・フォーム申請の際、PDF のみの受け付けとなるため、写真を PDF 化する方法について事前に調べておくこと。
- ・上位校、下位校で入場の時間に違いがあるため、準備時間の不公平をなくすために入場前の荷解きは禁止とする。
- ・昨年 2 件ほど、喫煙をめぐるトラブルが発生している。
- **喫煙の可否等はオープンチャットや当日の道場説明にて諸注意を確実に行うこと。**
- ・順位決定戦以降の会場、立合校の割振は第 V 週目が終了次第、決定する。
- ・大会要項の更新がある場合は、毎週木曜日までに公開する。

18. 事前質問フォームへの回答

立合を3人以上で行うことは可能か。

可能である。ただし、入校者数に制限のある大学があるため、必ず会場校に確認すること。

棄権した大学の参加するオープンチャットには入室すべきか。

棄権する大学が含まれる試合のオープンチャットに入室する必要はない。

危険矢の矢取りの判断について

選手、介添え、監督の方から矢取りの依頼がない限りの中確認・矢取りは行わない。依頼があった際には、危険矢として一度試合を中断しの中確認を行うこと。

隣の的に危険矢を出した場合、的中確認は隣の的、危険矢を出した選手の的、どちらを確認すべきか。

危険矢を出した人の的の的中確認を行うこと。

入替戦に関する質問について。

大会要項に記載があるため、そちらを確認していただきたい。

お手洗いや水分補給等で主審が席を外した際に、副審が主審の代わりを務めてよいか。

試合中は常に主審と副審の2人がそろい、ダブルチェックができる体制を保っておくこと。立合が休憩をとるのは構わないが、試合中に主審か副審のどちらか一方だけになる状況は避けておくこと。

毎週会場校になっている大学に対して、的紙提供等の対応がないか。

会場校になっていない大学と、毎週会場校に指定されている大学との間で負担度がかなり不平等に感じた。

有志で行っているスポーツである以上、すべての大学が平等に負担を担うことが理想である。そのため昨年度の学生弓道合同研修会でも議題として取り上げた。時間をかけて議論を重ね、改善していきたい。

東洋大学の男子が棄権となることにより、こういった対応がとられるか。

東洋大学は0勝4敗として扱われる。加えて、行射をしていないためIV部最下位3校のうち3位として扱われる。入替戦についてはIV部最下位3校のうちの中率が3位の大学とV部優勝校3校のうちの中率が1位の大学が戦うこととなる。東洋大学は入替戦を棄権する形となるため、結果的にV部優勝校3校のうちの中率が1位の大学が無条件でIV部昇格を果たすこととなる。

19. 質疑応答

[東京都市大学より質問]

射手の立ち位置や足踏みの方向の指導は狙いの指導に該当するか。

立ち位置の指導については禁止事項には含まれない。

選手の体に触れて指導すること、選手に狙いを伝えることが禁止事項に該当する。

[東京工科大学より質問]

大会要項や規約を読んで、わからない点があった際にすぐ連絡、相談できるフォームはあるか。

不明点等がある際には、本連盟の gmail アカウント(togakuren.iinkai@gmail.com)に問い合わせること。